

当社グループは、『CSR』を「ステークホルダー（利害関係者：地域社会・お客さま・株主さま・従業員）とのよりよい関係を構築することにより、企業および社会の持続的成長を実現すること」と考え、法令遵守・リスク管理態勢の強化といった企業経営に関する取組みはもとより、ステークホルダーに対するさまざまな取組みを行ってまいります。

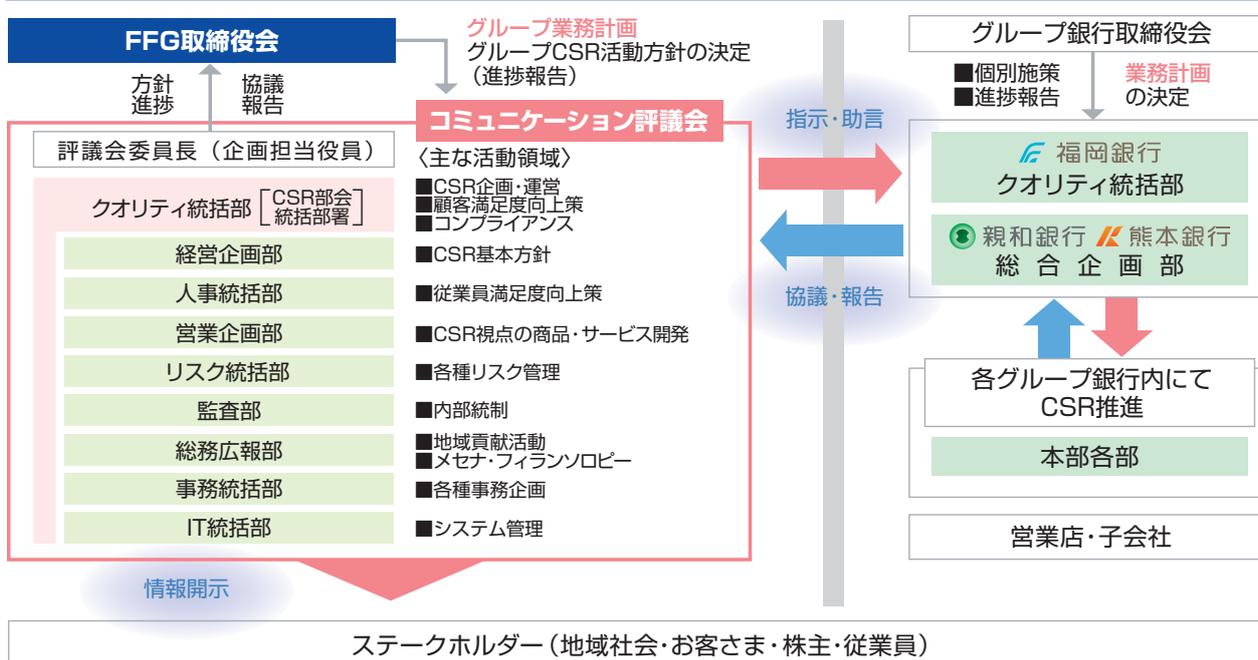
また、当社グループは、グループ経営理念の実践とも言うべき事業活動そのものが『CSR』であると考え、地域金融機関に期待される地域社会の信用を維持するとともに金融の円滑を図り、地域経済の健全な発展に貢献する『社会の公器』（公共の機関）としての社会的責任はもとより、地域金融グループとしての役割・特性を活かして持続可能な社会を実現するため、最も貢献できる分野において、さまざまな変革と価値創造に寄与する活動を展開していきます。

FFGにおけるCSRの定義

CSRとは、全てのステークホルダーがFFGに抱く経済的、法的・倫理的、若しくは心情的な期待に対して、バランスのとれた意思決定を行い、さまざまな価値を提供することで、ステークホルダーの持続可能な成長を促進し、FFGの持続的な発展を実現していくこと。



FFGのCSR経営/推進体制



当社グループで取組むCSR活動は、その時々¹の社会的課題や要請に対し、受動的に²応えるのではなく、持続可能な活動として自発的かつ継続的に実施していくことが基本となります。

具体的には、活動方針として『3つの活動領域』と『3つの活動層』を設定しています。これは、「環境共生活動」・「生涯学習支援」・「ユニバーサルアクション」の3つの活動層を重点分野として設定した上で、「銀行業務プロセス」・「商品・サービス」・「本業外の社会貢献」の3つの活動領域でそれぞれバランスをとりながら様々な活動にチャレンジするものです。

CSR活動を通じて、当社グループの「広域展開型地域金融グループ」としての役割・特性を活かしながら、良き企業市民・良き企業人としての責務を果たすとともに、社会の変革と新たな価値創造に挑戦していきます。

■3つの活動領域(Activity Area)

銀行業務プロセスにおけるCSR

コーポレートガバナンス、法令遵守、各種リスク管理、情報開示といった企業経営の根幹となる態勢構築・整備をはじめ、従業員の雇用や自らの環境負荷軽減活動等といった、銀行業務の全プロセスに係る取組み

銀行の商品・サービスによるCSR

銀行のもつ金融機能を活用して、社会的に意義ある商品・サービスを開発・提供する取組みおよび金融ビジネス

本業外の社会貢献におけるCSR

本業とは直接的な関係は薄い³が、経営資源を活用して、社会的課題に関与する取組み（ボランティア、文化芸術活動等含む）

■3つの活動層(Activity Layer)

活動層Ⅰ 環境共生活動

地球に負の影響をおよぼす環境問題は、当社グループが共生を⁴図っていく『地域』にとっても看過できない重要課題です。当社グループは、自らの環境負荷の抑制・軽減に努めるとともに、『金融』が持つ役割・機能を介して、環境保全に資する商品・サービスを積極的にステークホルダーの皆さまへ提供していきます。

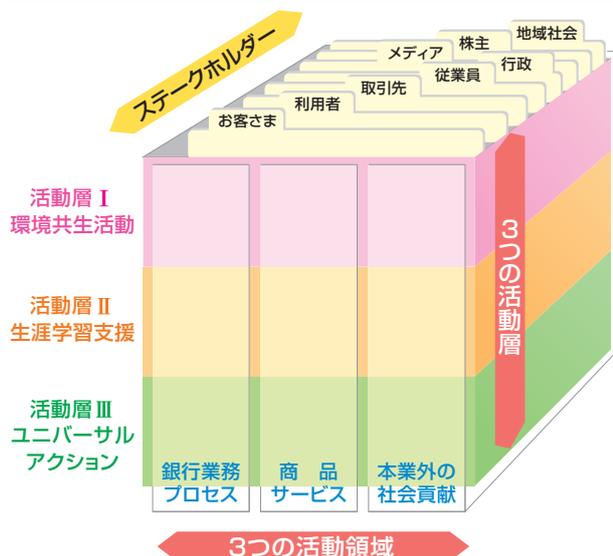
活動層Ⅱ 生涯学習支援

次世代を担う子どもの豊かな感受性、人間性の形成はもちろんのこと、すべての人々のライフサイクルに応じたさまざまなシーンで、金融知識の普及を通じた生涯学習を支援していきます。また、企業市民としての『法人』を対象とした各種啓蒙活動にも取組みます。

活動層Ⅲ ユニバーサルアクション

店舗チャネルなどのハード面や、商品・サービスなどのソフト面、従業員一人ひとりの⁵対応といったヒューマン面において、高齢者、障がい者、子ども、女性などに特定しない『みんなに優しい』をキーワードにした、デザイン、機能、サービスを充実させる活動を展開します。

■3つの活動領域と3つの活動層の組み合わせ(CSR CUBE)



3つの活動領域と3つの活動層の最適な組み合わせ＝バランスのとれたCSR経営を展開することで、社会の変革と新たな価値創造に挑戦していきます。

「FTSE4Good Index Series」の構成銘柄に選出されています。

FFGは、平成21年9月以降、ロンドン証券取引所の100%完全子会社であるFTSE社の「FTSE4Good Index Series」の構成銘柄に選ばれています。



「FTSE4Good Index Series」とは

2001(平成13)年にFTSE社が開発・提供を開始した株式指標で、半期に一度見直しが行われる。企業責任活動において国際基準を満たす企業を構成銘柄とするSRI(社会的責任投資)の代表的指標で、世界2大SRIインデックスの一つとされ、CSRに関心を持つ投資家の投資選択基準となっている。

■環境共生活動

環境への取り組み

当社グループでは、平成21年4月にグループ共通の環境方針を策定し、環境問題に対して、自らの環境負荷の抑制・軽減に努めるとともに、「金融」が持つ役割・機能を通じて、環境保全につながる商品やサービスを積極的に提供しています。

環境格付融資 FFG「エコ・ローン」

環境に配慮した経営を行う企業の取り組みを当社独自の「環境格付」で評点化し、得点に応じて金利優遇を行う融資商品 FFG「エコ・ローン」をグループ3行で展開しています。

エコ活動

当社グループ独自の節電プログラムの展開や、身近な取り組みとして、室内空調の適切な温度設定や離席時のパソコン電源オフの励行、各部店単位でのエネルギー管理などを実践し、電力使用量の削減に努めています。

また、太陽光発電設備の設置やLED照明の採用、敷地内(屋上)緑化などエコオフィス化の推進やリサイクル活動にも取り組んでいます。

FFGの環境方針4つの柱

(1)環境マネジメントシステム(EMS)の継続的实施

- 地域の環境保全のために、目標を設定し、具体的な活動を通じて達成を目指します。
- 活動を評価し、必要な見直しを行うなど、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

(2)本業を通じた環境面への取り組み

- 本業を通じて環境活動の側面からも地域貢献に努めます。

(3)環境配慮活動の実施

- 省エネ・省資源活動への取り組みおよび環境保全に配慮した社会貢献活動の実践により、環境への負荷軽減に努めます。

(4)全役職員への周知と徹底

- 本方針を当グループ全役職員が認識し、一人ひとりが環境問題について考え、自主的に行動し、改善活動を実践していきます。

■生涯学習支援

金融を通じたライフサポート

金融についての正しい知識を身につけ、合理的な判断をしていただけるよう、各種金融教育支援活動を展開しています。資産運用・年金・保険・住宅などの各種セミナーはもちろん、学生向けに「金融・経済学習」も開催しています。

「女性のための応援セミナー」(福岡銀行・ふくおか証券)や、長崎県立大学・長崎大学での「大学生向けマネープランセミナー」(親和銀行)などさまざまなセミナーを開催したほか、九州産業大学において、平成26年9月から27年1月にかけて全15回の寄附講座(福岡銀行)を実施しました。

次世代を担う子どもたちへ

子どもたちに「働くこと」の意義や「金融・銀行」の社会的な役割などを身近に楽しく学ぶ機会を提供しています。

グループ3行の営業拠点がある地域の小・中学生を対象とした「『銀行の職場探検』プログラム」や、高校生向け職場体験プログラム「ジョブシャドウ(※)」、大学生・大学院生向け「FFGインターンシップ」など、年代に合わせた幅広いプログラムを展開しています。

※「ジョブシャドウ」は公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本(以下JA)の登録商標であり、JAが提供する体験型実技プログラムです。

文化芸術・スポーツ活動

さまざまなイベントを通じて、音楽やアート、スポーツなどに触れる機会をご提供するなど、地域の文化芸術・スポーツ活動を応援しています。

福岡銀行は「北九州マラソン」「福岡マラソン」、熊本銀行は「熊本リレーマラソン」、親和銀行は「長崎がんばらんば国体・長崎がんばらんば大会」でそれぞれオフィシャルスポンサーを務め、多くの行員がボランティアとして参加し、運営をサポートしました。



女性のための応援セミナー



九州産業大学での寄附講座



福岡マラソンでのボランティア



長崎がんばらんば国体でのボランティア

■ 生涯学習支援

ふくおかフィナンシャルグループ文化芸術財団の取り組み

当財団では、銀行や県境を越えて、教育・文化活動などさまざまな取り組みを展開しています。

文化・芸術の発展を通じた地域振興を図るため、グループ3行の「ニューイヤーコンサート」や、福岡銀行が定期開催している「ビルの谷間のコンサート」に加え、FFGホール(福岡銀行本店地下ホール)の利用促進も行っています。

また、従来は親和銀行のみで取扱っていた助成金事業「ふるさと振興基金」を、平成26年12月よりグループ3行に拡大し、福岡県・熊本県・長崎県内の学術・教育・文化・社会事業等の振興を図る活動に必要な資金を助成しています。



ゆるキャラ運と楽しむ音楽会
(児童招待イベント)

■ ユニバーサルアクション

「みんなに優しい」銀行を目指して

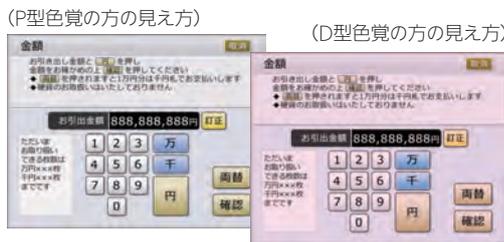
障がいをお持ちの方やご高齢の方などに限らず、誰もがもっと利用しやすい銀行を目指して、応対力の向上やサービス体制の充実に向けた取り組みを行っています。バリアフリー機能を備えた店舗への建替えリニューアルを進めるとともに、全店に「車椅子」「助聴器」など各種ユニバーサルツールを配置しています。店舗内ATMには、車椅子ご利用の方でも動きやすい「足下スペース」や目が不自由な方向け「音声ガイド付ハンドフォン」を全台装備したほか、平成27年5月にかけて順次導入される新画面では、さまざまな色覚特性を持つ方が視認しやすい配色を採用しました。

「みんなに優しい」店舗づくり

- 店舗のバリアフリー化
 - お客様責任者・サービス介助士の全店配置
 - 普通救命講習受講者の配置
 - 認知症サポーターの配置
 - 下記ユニバーサルツールの全店設置
- (AED・車椅子・老眼鏡・視覚障がい者対応ATM・コミュニケーションボード(聴覚障がい者・外国人)・耳マーク案内板(筆談でのご案内)・助聴器・貸傘)



ATMの音声ガイド付ハンドフォン



視認しやすい配色



筆談でのご対応の案内

被災地でのボランティア活動

平成23年6月から3年間、東日本大震災被災地での従業員ボランティア活動を実施し、全36回・延べ867名が参加しました。その後も、被災地への想いを風化させまいと「東北応援プロジェクト」を東邦銀行(福島県)と共同開催。こうした活動が認められ、宮城県社会福祉協議会から優良企業功勞として表彰されました。



東日本大震災被災地復興ボランティア

地域貢献活動

ふくおかフィナンシャルグループ企業育成財団(略称:キューテック)

キューテックは、地域の技術指向型中小企業に対して、研究開発および人材育成に対する助成、講演会の開催などの各種事業を行っています。中小企業が行う優れた新技術や新製品等の研究開発の支援策として、毎年「キューテック助成金」を交付しており、平成25年度は10件の交付先に総額3千万円の助成金を交付しました。これまでの助成実績は今回を含めて累計248件、金額は6億7,749万円に上ります。



助成金を受けられた企業の代表者10名

「小さな親切」運動

熊本銀行は、「青少年の豊かな心づくり」を目標に、平成2年から「小さな親切」運動熊本県本部事務局を務めています。思いやりの心の輪を広げるべく、「『小さな親切』実行章の推薦と贈呈」「『小さな親切』作文コンクール」「車椅子寄贈運動」などの各種活動を行っています。